

～未来へ、選択の覚悟～

年末、国の防衛副大臣らが来島し、馬毛島の土地の取得状況をふまえ、自衛隊基地を整備したいとの方針を述べました。ただ、要員配備規模や施設整備の内容は、一般論だけで、具体的には示されていません。

また、米空母艦載機着陸訓練(FCLP)については、引き続き候補地だと説明しています。

馬毛島の自衛隊施設建設は、まだ決まっていません。

国は、土地取得が六割余り進み、環境調査をしたい。さらに施設整備による環境影響評価をして適否を判断し、具体的な整備計画を示して、地元の理解が得られたら工事に着手したい。そんな流れだと判断します。

そもそも馬毛島への自衛隊配備は、FCLPの恒久的施設を管理するのが目的です。ところが国は、自衛隊配備のイメージを前面に出し、核心のFCLPがボカされ、なし崩し的に整備に進みかねない気配です。

FCLPは騒音被害や自然環境への悪影響の懸念から、米国本土でも、遠隔地訓練場(OLF=Outlying Landing Field)の建設に反対運動が起きています。

私は、市長選でFCLP施設反対を唱えて当選しました。馬毛島にふさわしい利用法をFCLP以外に追求する考えは、一切変わっていません。

FCLP施設建設に賛同する声は、人口増や経済効果を期待してのことです。市長として、賛成、反対、それぞれの考えに至る市民の心情を思います。

どちらにも、得るもの、失うものがあります。

住民の対立による地域社会の分断、破壊は不毛です。

今、静かな島の環境を求める移住が、じわじわと増えています。先祖代々のふるさとを未来の子孫に引き継ぐ重大な選択へ、しっかり責任を果たす覚悟です。

西之表市長 八板俊輔